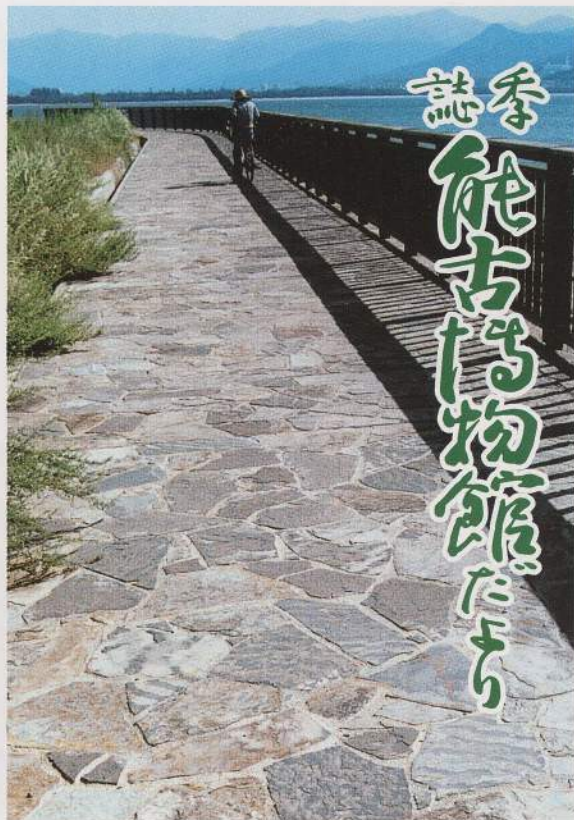




さざ波の化石 磯辺公園付近



季  
誌  
能古博物館だより

# 地質博物館・能古島(4)

能古会会員  
小川 誠

## 「さざ波の化石」

磯辺公園から海岸に沿い北に延びる道は、さざ波の模様を刻んだ敷石で舗装され、保護柵も付いている。夕日の名所とは聞いたが、その海岸に通じる道としては余りにも立派である。

かつてこの道の建設を担当された福岡市港湾局の担当者のお話では、この道は「遊歩道護岸」と言い、平成七年〜八年に国の補助事業として施工された。旧来型の護岸はコンクリート造りが主体だが、国との協議を行う中で、能古島は自然の多い美しい所、自然石の使用が適当であろうということになり、また、昨今のウォーターフロント整備の波にも乗り、お蔭で現在の情景となったのである。

ところで、業者の持参したサンプルにはロッキーマウンテンの石とあったが、山の石とは見えず海の石と感じたそう。

確かに、これは海の石、詳しくは「さざ波の化石」と呼ばれるもの。海底の砂層表面に残されたさざ波の模様の上に砂が堆積し、長い地

質時代を経て波の模様がそのまま化石になったのである。

この石はアイダホ州中央部の産と聞いたが、そこはかつての海底、先カンブリア時代から古生代までの古い地層(二十億年前〜二億五千万年前)が堆積した所で、アリゾナ州のグランドキャニオンに通じていたかも知れないのだ。

「さざ波の化石」は、日本でも各地で見られるが、形が良くて大規模なものは天然記念物に指定され、採掘は禁止である。

この「さざ波の化石」は砂浜の色に合わせたというように、灰褐色の細粒砂岩で、細かい層理が発達し、板状に割れやすく、敷石としても最適である。

また、護岸の法面には大量の玄武岩の大塊が使われているが、これは長崎県五島の石のことだ。

能古島にロッキーマウンテンの「さざ波の化石」。何気ないつながらだが、自然環境を尊重するという考えが実現したことに感謝したい。

しかし、敷石となった彼らは今、能古の海岸でかつての安らぎを取り戻しているのだろうか。



の手筋の良さに些か瞠目した父が、それならと目を掛けてやったようなものであった。

友は学塾の講義授業の末席に小机を持ち込み、見よう見まねで筆を揮るっていた。友の躰け教育の主体は、母のイチの役割であった。母の手伝い、弟妹との遊びが中心となる。

友の次妹の敬は全く手習いに関心をもたなかったので、ほったらかしの状態となり、悪筆ぶりには、姪浜の五島屋を継いだ後も、終生、姉の友から苦情を言われ続けたという。

◆「孝経」「論語」「詩経」そして詩作

四歳から父の手ほどきで始めた習字は、一つ一つの字の訓みも進み、ついで「孝経」「論語」「詩経」を拾歳頃迄に習得していった。そして父昭陽の著述の筆写助手をも手伝うようになった。

余技として始めた「詩書画」も、特定の師匠が有るわけではなく、これまた自習自得であった。が、いつしか世人の注目があつまるようになる。しかしこれは少し後の事。

年譜によれば友十一歳、父は友と門人の神村玄篠を従え須恵村に遊行。途中の茶屋に於いて分韻詩作を行う。

翌十二歳時、日田の広瀬淡窓が亀井師家を訪問した。前回の南冥の六十年の寿宴出席以来だから六年ぶりである。この時友は淡窓に詩を贈った。この詩は残っていないが、淡窓の唱和の詩はその「懐旧樓筆記」に残っている。

十五歳、父は百道のわが家を増築して友の居室として与え、「窈窕邸」と名付けてやった。窈窕とは女のしとやかさ、奥ゆかしきさま。「詩経」に「窈窕の淑女、君子の好逑」とあり、昭陽の娘への期待の命名である。

十八歳、友は自作のこれまでの詩を選んで「窈窕稿乙亥」の一冊にまとめた。収録は九十四首にもなる。

友の詩画の才能は絢爛と開花し、十九歳で結婚を迎えるのである。

所で、肝心の亀井家学の後継者となるべき男子は、長男義一郎(蓬洲)は十一歳、次男鉄次郎(陽洲)八歳であった。(続く)

Table with 3 columns of names and numbers, likely a list of members or contributors.

※新規の御加入(先号以後、平成十三年一月十五日現在を、記載いたしてありますので、何卒ご芳名をご確認ください。ありがとうございます。)

自然と文化の小天地創造

能古博物館の会

協賛会(個人)年間1万円(何口でも可)

友の会(法人)年間3万円(何口でも可)

(館の活動、館誌購読と催事企画に参加)

館維持、資料収集、施設整備等の

資金援助を受ける

納入方法 郵便振替 〇1730960970

右の会費受領は、その都度本誌に掲載、以後会費相当期間を名簿にします。

能古博物館ご案内

開館 9:30~17:00 (入館16:30まで)
休館日 12月1日~2月末日の冬季のみ休館
入館料 大人400円・中高生200円
交通 姪浜 能古行渡船場→フェリー(10分)
→能古(徒歩5分)→博物館
〒819-0012 福岡市西区能古522-2
(092) 883-2887
FAX (092) 883-2881
ホームページ http://www.nokonet.com/museum
メールアドレス museum@nokonet.com



# 亀井家学を支えた女たち(5)

福岡地方史研究会会員 早船正夫

少栞(昭陽長女 友) 上

南冥、昭陽、と続いた亀井家学は次代の嗚洲に受け継がれる。しかし、世間では南冥、昭陽の次は少栞と思っている人は案外多い。

少栞は亀井家学の輝やける代表選手でこそあれ「支えた」女達という内助的な位置づけることをいぶかしく思われるであろう。だが、やはり少栞は亀井家学を支えた女であると考えられる。以下そのことを明らかにしたい。

たれ華麗であった。

筑前でもと思ひ立つたのは、秋月藩の八代藩主黒田長舒ながゆである。秋月藩校の教授である原古処と、藩主侍読として毎月出講していた福岡藩の亀井昭陽の二人に企画と実行を命じた。ここに「西都雅集」と銘打ち、太宰府天満宮を会場として開催された。時これ文化三年(一八〇六)三月である。

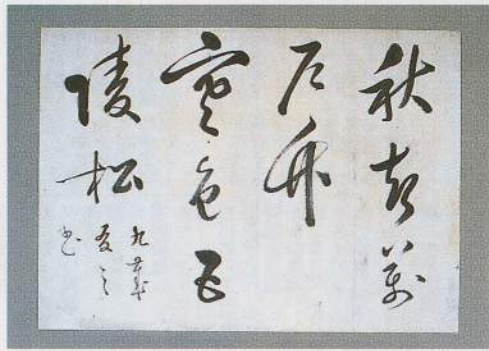
## ◆ 出展者は百一名。内亀門六名

秋月藩主とその二公子を筆頭に福岡秋月両藩の学問文事をたしなむ武士、学者それに在野文人。筑前に於ける詩文教養層の厚さがしのばれ、当時の文芸流行が地方に及んでいたことを証するものである。

この時の出展目録刷は、原本が能古博物館に収蔵されておる。読

者のご縁故の方の名もあると思われる。

亀井一門からは南冥、昭陽の外南冥の実弟曇榮(当時崇福寺住職を退職後塔頭にて隠居)昭陽の二弟大壮(号は雲来、名は昇、太宰府にて医業)大年(号は天地房、名は満、姪浜にて医業)の五人。所謂「五亀」であり、南冥が「一弟子皆墨妙」と自賛していた者の勢揃いである。



習字(少栞 九才)

これに九歳の友、すなわち後の少栞が加わっているのである。

(以上庄野寿人著「閨秀亀井少栞伝」要約)

友の出展作は『行書一行』と出展目録刷にあるが、その実物は見つかっていない。

## ◆ 友、少栞は何故選ばれたか

「西都雅集」の参加人員は百名と予定されていたと考えられる。それが百一名になった。友の出展は見合わずべきとの意見は出たであろう。何故なら百の出展者の内、五亀でも既にその割合は五分すなわち五パーセント。いくら友の書が天才的で優れているにせよ、封建の世、九歳の娘の出展は幹事役の昭陽の我儘と見られかねない。それを行い得たのは諸種の事情はあるにしろ、秋月藩主の裁可あればこそである。並々ならぬ好意を感じる。

## ◆ 秋月藩主の好意

この文化三年、亀井一門の置かれた境遇は恵まれたものではなかった。南冥が罷免・終身禁足の処分を受けてから十四年。二度の火災後、百道に居を構えて五年。昭陽は藩の儒業職を免ぜられ城代組平士に編入、城の見廻りという下級

## ◆ 九歳、幸運なる出展

西都雅集展観

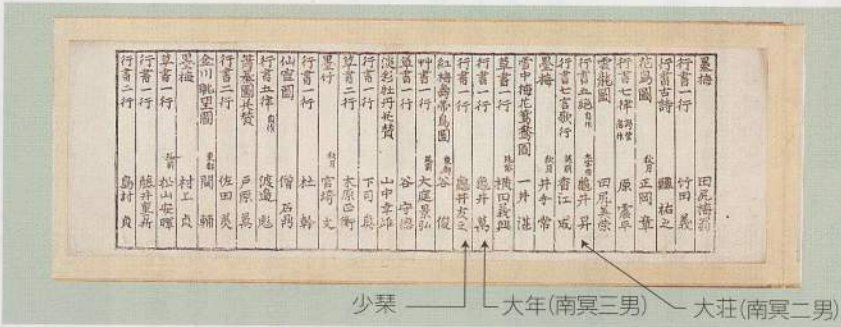
当時、京都や江戸では書画会といて書や画を表装等にしてこれを一堂に並べ、出展者も同時に集い交歓する催しが行われていた。高級料亭等を会場として出展者や参観者の宴席が会期中に何回かも



能古博物館だより

武士の馴れぬ仕事をこなしながら、父南冥の古文辞学の深化、学塾の経営に骨身を削っていた。しかも禄は百五十石から拾五人扶持と約四分の一と減少していた。黒田藩の扱いは酷薄であったといえる。

幸いに支藩の秋月藩主の好意によって、その侍講は続けさせて頂いていた。その昭陽に「西都雅集」の企画実行が命ぜられた。さらにこの催しの後のこととなるが、父南冥の「論語語由」の開板も、後援で江戸において行われることになり、藩主の参勤に随行して江戸におもむくことになる。正に「足を向けては寝られぬ」気持ちであったろう。



西都雅集展観 書画題名(一部)

友、秋月候に從い秋月へ

縮緬帯を賜る

「西都雅集」の終会后、昭陽は藩主の帰館に友もつれて従うように命ぜられ、秋月に於いて、昭陽は羽織を友は縮緬帯を拝領する。

友の人生の出発は、このように華麗であった。友の少女期の経験は友の一生にとつて実に貴重であった。それは幼年期に著名なコンクールに入選した人の、その後の人生に似ている。友は自信をもつて伸び伸びと詩書に励むことになる。

自己修練による会得

友は女子であるから亀井家学の後継者として期待されていたわけではなかった。昭陽から四歳より習字を教わったもの、これは友が一人勝手に始めた手習い

能古博物館協賛会・友の会

法人協賛会員

- 協賛会(敬称略・順不同)
(医)原土井病院
(株)ミドリ生コン
(株)サンワ
(株)アルアル
(株)アールアンドエム
(株)クリエタルデータサービス
福岡板橋郵便局 鬼飯信孝
福岡能古郵便局 西方俊司
福岡赤坂郵便局 福田正義
日清医療食品 福岡支店
(株)福岡経営管理センター
(株)サンコー
(医)恵光会原病院
(株)西日本銀行 和白支店
(株)西日本銀行 千代町支店
(株)西日本銀行 香椎支店
(株)西日本銀行 土井支店
(株)西日本銀行 新宮支店
(株)西日本銀行 箱崎支店
(株)西日本銀行 久山支店
(株)サンネット
(株)福砂屋
(株)昭和と鉄工
(株)商業コンサルタント
(株)日本医科器機
(株)丸電工 福岡東営業所
(株)高電社
(株)タカミ工業
(株)福東電設
(株)福岡通技研
(株)出口塗装
(医)笠松会有病病院
(株)日本スラット(株)
(株)川島工務店
(株)第一特殊金属
(株)ミドリ生コン
(株)サンワ
(株)権原塗装(株)
(株)エステイ工業
(株)タイコウ設計
(株)奥村組
(株)三洋建設
(株)東邦企画
(株)協同設備
(株)セントービスネス
(株)ウエダ建築社
九州防災工業(株)
(株)豊友設備
(株)総合産業(株)
(株)ニッコクトラスト
(株)メイトン
(株)セロックス
(株)ダイアロックス
(株)ホスピカ
(株)ニチエ学館
ギヤラリー倉
(株)福岡リハビリテーション病院
(医)江頭会さくら病院
(株)二子口九州支社
(株)宗教法人善隣教
(株)リコー商会
(株)橋本組
(株)下川工業(株)
(株)学校法人原学園
(株)内川工業
(株)協和産業福岡支店
(株)大和産業福岡支店
(株)社会福祉法人福岡のまわりの里

御寄付者芳名

稲澤智多夫様 「ありがとう」
上田 博様 「ございました」

協賛会会員

友の会会員

- 松本盛二③ 立石 武泰①①
南 誠次郎①① 伊藤 茂①①
中山 重夫⑦ 玉置 貞正⑬
菅 直登⑧ 水田 和夫④
早船 正夫⑧ 木戸 龍一⑩
浄満寺⑪ 岡部六弥太⑪
奥村 宏直⑦ 星野万里子⑧
笠井 德三⑦ 吉村 雪江⑧
荒木 靖邦⑧ 安松 勇①①
安昭 光正⑧ 上田 良一⑦
亀井 准輔⑩ 高田 浩二⑨
熊谷 雅子⑥ 桑野 次男⑧
石橋 親一⑪ 藤木 充子⑩
木原 敬吉⑤ 和田 宏子⑩
坂田 貞治⑤ 板木 継生⑦
原田 國雄⑦ 行成 静子⑪
庄野 直彦④ 片岡 洋一⑪
森光 英子⑦ 石川 文之⑧
永井 功⑦ 橋本 敏夫⑦
緒方 益男⑦ 山内重太郎⑧
浦上 健⑦ 都筑 久馬⑦
山本 輝③ 横山 拓⑦
田中 貞輝③ 高橋 智一⑧
武内 隆恭② 古賀 清子⑩
白水 義晴⑦ 宮崎 集⑦
石野 智恵子⑪ 西本 政憲⑦
翠川 文子⑪ 岡本 金蔵⑦
多々羅 節子⑩ 三宅 碧子⑪
熊谷 豪三② 星野 金子⑦
有江 勉① 林 十九楼⑨
山崎 拓① 宮 徹男⑧
上田 満③ 安永 友儀⑩
七熊 太郎⑦ 編田 聖代治⑥
梅田 光治⑥ 上田 博⑩
西宮 光治⑥ 塚本 美和子⑦
片桐 寛子⑦ 鶴田 スミ子⑦
具島 菊乃⑤ 伊藤 康彦⑤
瀧 栄三郎③ 寺岡 秀賢④
西村 俊隆② 原田 種美⑤
明石 敬人② 奥田 稔⑦
矢部 俊幸① 石橋 清助⑨
上原 孝正① 井上 敏枝⑤
隈丸 清次⑦ 吉原 湖水⑩
川浪由紀子⑩ 脇山 浦一郎⑪



の手筋の良さに些か瞠目した父が、それならと目を掛けてやったようなものであった。

友は学塾の講義授業の末席に小机を持ち込み、見よう見まねで筆を揮るっていた。友の躰け教育の主体は、母のイチの役割であった。母の手伝い、弟妹との遊びが中心となる。

友の次妹の敬は全く手習いに関心をもたなかった。ほつたらかしの状態となり、悪筆ぶりには、姪浜の五島屋を継いだ後も、終生、姉の友から苦情を言われ続けたという。

◆「孝経」「論語」「詩経」そして詩作

四歳から父の手ほどきで始めた習字は、一つ一つの字の訓みも進み、ついで「孝経」「論語」「詩経」を拾歳頃迄に習得していった。そして父昭陽の著述の筆写助手をも手伝うようになった。

余技として始めた「詩書画」も、特定の師匠が有るわけではなく、これまた自習自得であった。が、いつしか世人の注目があつまるようになる。しかしこれは少し後の事。

年譜によれば友十一歳、父は友と門人の神村玄篠を従え須恵村に遊行。途中の茶屋に於いて分韻詩作を行う。

翌十二歳時、日田の広瀬淡窓が亀井師家を訪問した。前回の南冥の六十年の寿宴出席以来だから六年ぶりである。この時友は淡窓に詩を贈った。この詩は残っていないが、淡窓の唱和の詩はその「懐旧樓筆記」に残っている。

十五歳、父は百道のわが家を増築して友の居室として与え、「窈窕邸」と名付けてやった。窈窕とは女のしとやかさ、奥ゆかしきさま。「詩経」に「窈窕の淑女、君子の好逑」とあり、昭陽の娘への期待の命名である。

十八歳、友は自作のこれまでの詩を選んで「窈窕稿乙亥」の一冊にまとめた。収録は九十四首にもほる。

友の詩画の才能は絢爛と開花し、十九歳で結婚を迎えるのである。

所で、肝心の亀井家学の後継者となるべき男子は、長男義一郎(蓬洲)は十一歳、次男鉄次郎(陽洲)八歳であった。(続く)

Table with 2 columns of names and numbers, likely a list of members or contributors.

※新規の御加入(先号以後、平成十三年十一月十五日現在)を、記載いたしておりますので、何卒ご芳名をご確認ください。ありがとうございます。

自然と文化の小天地創造

能古博物館の会

協賛会(個人)年間1万円(何口でも可)
(法人)年間3万円(何口でも可)
友の会 年間3千円(何口でも可)

館の活動、館誌購読と催事企画に参加
館維持、資料収集、施設整備等の
資金援助を受ける
納入方法 郵便振替 01730960970
財団法人 能古博物館

右の会費受領は、その都度本誌に掲載、以後会費相当期間を名簿にします。

能古博物館ご案内

開館 9:30~17:00 (入館16:30まで)
休館日 12月1日~2月末日の冬季のみ休館
入館料 大人400円・中高生200円
交通 姪浜 能古行渡船場→フェリー(10分)
→能古(徒歩5分)→博物館
〒819-0012 福岡市西区能古522-2
(092) 883-2887
FAX (092) 883-2881
ホームページ http://www.nokonon.com/museum
メールアドレス museum@nokonon.com



# 第4回能古の風フォトコンクール 入賞者発表



グランプリ賞 「真夏の頃」 高鷹 春一氏



のこのしまでしよう  
能古島賞

「防人の島の人々  
あとは引き受けた」

関 敏巳氏

## 第4回 能古の風フォトコンクール入賞者

グランプリ賞	五万円	高鷹 春一 様	福岡市早良区小田部
準グランプリ賞	三万円	野村 武 様	福岡市西区石丸
特別賞	二万円	柳瀬 尚子 様	福岡市西区泉
のこのしまでしよう 能古島賞	一万円	関 敏巳 様	福岡市西区能古
入選	一万円	小島 博 様	福岡市西区下山門
入選	一万円	斎田 英二 様	福岡市早良区西新
入選	一万円	中田 長之 様	福岡市西区姪浜
入選	一万円	永露 憲治 様	福岡市博多区月隈
入選	一万円	中村 信栄 様	前原市篠原
入選	一万円	藤吉 マツエ 様	福岡市中央区小笹
入選	一万円	山本 光玄 様	福岡市中央区大手門

### 事務局だより

▼第4回能古の風フォトコンクール(応募作品一〇二点)も無事終了致しました。皆様のおかげで毎年このコンクールを続けることが出来ております。本当に有難うございます。気の早い話ですが来年も又、御応募の程お願い申し上げます。

▼当館は、冬期休館(十二月一日～二月末)に入ります。開館中(三月一日～十一月末)は休館日が無い為、この時期に資料の整理、情報収集、調査、工作、ビデオ撮影、建物・庭の手入れ清掃等々、数少ない職員とボランティアの人達、ちよっと立寄った島の人も、たまたま訪れた人も、あらゆる仕事人に変身します。寒い日の外作業は風が吹きすさび冷たく、暖かく晴れた日の作業はうれい。でもあまり天気が良いと休館がもつたいなく...かなしい。皆様にはいつも館の運営に御協力いただき有難うございます。来年も又、御支援いただけます様お願い申し上げます。